

事業の背景・目的

世界自然遺産の登録を目指す奄美大島の希少種保全対策については、国・県・市町村・県警・関係団体等が連携してパトロール等に取り組んでいるものの、盗掘・密猟が相次いで発生しており、その対策を図ることが関係者共通の課題となっている。

本事業では、県が公有林化した森林内に生育する国内希少野生動植物種等の分布状況を調査し、保全事業計画の策定及び保全活動を実施することで、希少種の保全及び盗掘の防止に寄与することを目的に実施する。

事業の内容

世界自然遺産登録に向け県が公有林化した区域における国内希少野生動植物種等の分布状況調査を実施し、保全計画を策定する。

【令和2年度の取組】

①既存試料調査

重要な動植物のとりまとめ及び重点的に保護を行う必要がある種及び地区選定

②保全計画の策定

保全活動に向けた具体的な対策の検討

③現地研修会

地域との協力体制構築のための実地研修



得られた成果

- ①重点的に保護する必要がある種及び対象地区の選定
- ②持続的な希少種保全に向けた具体的な方策
- ③地域（森林）関係者との協力体制の確保に向けた気運の醸成

令和2年度は、世界自然遺産登録に向け県が公有林化した区域における国内希少野生動植物種等の分布状況等を調査の上、保全計画を策定し、具体的方策の検討を行った。

令和3・4年度は、保全事業計画に基づく保全活動を実施し、世界自然遺産核心地域内において地域ボランティア等による持続的な希少種の保護活動（希少種の保護や密猟等を防止するための監視等）の定着を目指す。